

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

患者様のご相談・ご紹介等を承っております。ぜひ、ご利用ください。

周産母子センター



周産母子センターでは、合併症をもつハイリスク妊婦の妊娠・出産や、低出生体重児や病気をもちた赤ちゃんの診療を担当しています。胎児期から新生児期への連続した周産期と呼ばれるとても大切な時期を、小児科・産婦人科の両診療科

のスタッフが、一貫して診療することによって周産期医療の成績向上をめざして努力しております。産科部門では、出生前診断・治療、不妊治療・体外受精、妊娠中毒症、切迫早産、多胎妊娠などのハイリスク妊娠に対する高度な集中管理が行われ、重症の新生児を診療する新生児集中治療室(NICU)では、24時間体制で新生児の集中治療が行われており、高頻度振動換気(HFO)

や一酸化窒素(NO)吸入療法などにより、赤ちゃんの救命率および長期予後が著しく改善されています。妊娠・出産・育児・発達・療育などご不安なことがありましたら、当センターのスタッフにいつでもご相談ください。

周産母子センター

センター長: 貴田嘉一、副センター長: 松原圭一

産科 TEL:089-960-5760 FAX:089-960-5381

NICU TEL:089-960-5771 FAX:089-964-9131

創薬・育薬センター

当センターは、愛媛大学医学部附属病院と関連のある医療機関との連携を強化した「ネットワーク治験」を行っています。平成17年10月からは訪問CRC(治験コーディネーター)による「ネットワーク治験」の支援も開始しました。本ネットワークは、治験の質が高く、エンターが円滑に進むスピードある実施体制となっています。

創薬・育薬センター

センター長: 野元正弘
副センター長: 荒木博陽、
森豊隆志

TEL:089-960-5914

FAX:089-960-5910

E-mail: souyaku-post@m.ehime-u.ac.jp



医療福祉支援センター

当センターは、患者様が安心して療養できるよう支援するために、診察時や退院時のご相談・ご紹介等を承っておりますので、お気軽にご相談ください。

また、ご紹介くださる初診患者様のFAXによる診察予約も承っておりますので、詳しくは下記までお問い合わせください。

医療福祉支援センター

センター長: 三木哲郎
副センター長: 恩地森一、
石原謙、榎本真串(専任)

TEL:089-960-5322/5261

FAX:089-960-5959

E-mail: sien@m.ehime-u.ac.jp



平成18年2月より
抗加齢センターが
オープンします。

抗加齢センターは、壮年者・高齢者が健康長寿を過ごすことを目的として設立されます。特に血管系の特殊検診により血管年齢を測定することおよび各種脳機能検査により認知症の予備軍を早期発見することで個人のデータに基づいた医療(オーダーメイド医療)を実践する予定です。

通常外来で行っている保険診療とは区別され、自由診療による「抗加齢ドック」を行います。年齢制限はありませんが、一般には壮年者・高齢者(具体的には40歳から70歳)を対象と考えています。

主な検査項目として、頭部MRI・MRA、頸動脈エコー検査、脈波伝播速度、認知機能検査、骨密度検査、重心動揺検査などがあります。これらの結果を総合的に分析してお客様の血管年齢を算出するとともに今後の生活について適切なアドバイスをいたします。

TEL:089-960-5932

FAX:089-960-5916

(ただし2/1からです)

<http://www.m.ehime-u.ac.jp/hsp/aagc>

編集後記

明けましておめでとうございます。愛媛大学附属病院広報誌INVITATION第3号は新春号にふさわしく暖かなムードの表紙で、小児科の女性医師に登場してもらいました。小児科医の極端な不足の中でも、にこやかな笑顔を絶やさず勤務をこなす姿に拍手です。大学の小児科医達は松山圏の小児救急体制にも参加して、専門医療だけでなく地域医療にも貢献しています。愛大附属病院は地域に生き地域とともに歩む大学病院です。本年もよろしく願いいたします。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 榎垣貴男

◎表紙の人

周産母子センター 徳田桐子講師

— 小児科病棟デイルームで子どもたちと —



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111(代)

ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>